

タガログ語の人魚構文における複合性¹

片桐 真澄

1. はじめに

「太郎は明日東京へ行く予定だ」のような、いわゆる人魚構文 (mermaid construction) のプロトタイプは、以下の5つの特性を持つ (Tsunoda 2020a)。

- (a) 少なくとも表面的に、下記の(1)の構造を持つ。
- (b) **名詞**は、独立の語(接語ではない)の名詞である。
- (c) **節**の主語と**名詞**は同一指示ではない。
- (d) **節**は、それ自体で文として成り立つ。
- (e) **節**は、**名詞**+**コピュラ**の主語ではない。

- (1) 人魚構文のプロトタイプ:

[節] **名詞** **コピュラ**

Tsunoda (2020a) は次のように述べている。人魚構文は、少なくとも表面的には、従属節を含む複節 (biclausal) であるように見える。しかしながら、現代標準日本語 (Tsunoda 2020b: 以下、日本語) や朝鮮語 (Kim 2020) のような言語の人魚構文は、表面的には複節に見えるが、統語的には複節ではなく単節 (monoclausal) であることを示す証拠が豊富にある。これらの言語の人魚構文では、述語は2つではなく1つのみであり、その述語は、(2) に示されるように、**節**の述語と**名詞**+**コピュラ**の複合述語である。

- (2) [... 節の述語] **名詞** **コピュラ**

複合述語

1 本稿は、2021-2023年度科学研究費補助金基盤研究 (C) 「タガログ語における人魚構文の類型論的研究」(課題番号: 21K00527)の成果の一部である。

以上の点からタガログ語について見ると、タガログ語には人魚構文がないことが予測される²。これには少なくとも2つの理由がある。第一に、(1)の人魚構文のプロトタイプは、述語末尾言語である日本語の人魚構文に基づいている。実際、これまで人魚構文の存在が報告された言語のほとんどすべてが述語末尾言語である。一方、タガログ語は述語初頭言語である。第二に、人魚構文は、名詞が節の項ではない（または付加詞である）という点で、いわゆる「外の関係」（寺村 1992: 192-205）の連体修飾節に似ている。このことから、人魚構文は、外の関係の連体修飾節が豊富に存在するか極めて容認可能な言語に起こることが予測され、実際、日本語をはじめとする人魚構文を持つほとんどの言語では、外の関係の連体修飾節が容認される（Tsunoda 2020a）。一方、タガログ語では、外の関係の連体修飾節はほとんど不可能である（片桐 2010、Katagiri 2020）。

これらの点から、タガログ語には人魚構文がないことが予測されるのだが、予測に反して、タガログ語には人魚構文が存在する。タガログ語は述語初頭言語であるため、その人魚構文の構造は、日本語をはじめとする述語末尾言語の（部分的）鏡像となる。タガログ語の人魚構文は、知見の限り、筆者によって初めて報告された述語初頭言語における人魚構文である（Katagiri 2010）。

タガログ語の人魚構文は、(3)の定形タイプと(4)の不定形タイプの2つのタイプがある。定形タイプの例を(5)に、不定形タイプの例を(6)に示す。以下、人魚構文の例文では、名詞スロットの名詞は太字で示す。文字通りに訳すと人魚構文は意味をなさないが、適宜、文字通りの英訳(LT)と自由翻訳(FT)の両方を示す。節(とその文字通りの訳)は[]に示す。

(3) 定形タイプ：

名詞(-)リンカー [節(定形)]³

(4) 不定形タイプ：

名詞(-)リンカー [節(不定形)]

(5) ***Mukha-ng*** [sa-sabog=*na* *ang bulkan*].

face-LK AF: CONT-erupt=already TOP volcano

LT: 'Face [the volcano will erupt already].'

FT: 'It seems the volcano will erupt soon.'

(6) ***Plano-ng*** [apruha-han nang gobyerno ang pag-import

plan-LK approve-PF: INF GEN government TOP NMLZ-import

nang bigas].⁴

2 タガログ語は、オーストロネシア語族西マレー・ポリネシア語派に属する言語である。

3 リンカーは、先行語が母音で終わる場合は接尾辞-ng、[n]で終わる場合は接尾辞-g、[n]以外の子音で終わる場合は語naとなる。

4 標準的な表記法では、属格標識はngと表記されるが、リンカーの接尾辞-ngとの混同を避けるため、本稿では発音[nan]に近いnangと表記する。同様に、複数辞のmga [maŋa]は、本稿では、mangaと表記する。

GEN rice

LT: 'Plan [for the government to approve the import of rice].'

FT: 'The government plans to approve the import of rice.'

両タイプともに、**名詞と節はリンカー**によって連結される(片桐 2010, Katagiri 2020)⁵。タガログ語にはコピュラがないので、プロトタイプと異なりコピュラはない。定形タイプについては2.1節で、不定形タイプについては2.2節で詳しく見る。

タガログ語の人魚構文は、プロトタイプのものではない。それは、**コピュラ**を欠いている点(cf. (1))と、不定形タイプの場合には**節**がそれ自体で文として成り立たないという点(cf. (d))においてである。それでもなお、その構造は、(1)で示された構造の(部分的)鏡像となっており、人魚構文の一例であると言える。

上記の2つのタイプの人魚構文には、(i) 形態(定形か不定形か)、(ii) 統語、(iii) 意味の3点に関して違いがある。

定形タイプにおいては、**節**の述語は定形であり、**節**は基本的にそれ自体で文として用いることができる。名詞スロットの**名詞**は、*mukha* 'face' である。定形タイプは、視覚的証拠や推測による証拠の意味を持ち、全体として「Xは…しそうだ」(文字通りの意味は、「Xは…する顔だ」)のような意味を表す。

不定形タイプにおいては、**節**の述語は不定形であり、**節**はそれ自体で文として用いることができない。名詞スロットに入る**名詞**には、*plano* 'plan'、*tradisyon* 'tradition'、*destino* 'destiny'、*balak* 'plan'、*kapalaran* 'fate' などがある。不定形タイプでは、「Xは…する計画だ」(モーダルの意味)、「Xは…する習慣だ」(アスペクトの意味)、「Xは…する運命だ」(モーダルの意味)のような意味を表す。

第3節で見ると、タガログ語の人魚構文は統語的に複節ではなく単節であり、**名詞と節**の述語が複合述語をなすという証拠がいくつかある。しかしながら、その証拠は日本語や朝鮮語に比べ弱い。タガログ語の人魚構文においては、単節化や複合述語化が日本語や朝鮮語のそれほど進んでおらず、また、その度合いは上記の2つのタイプ間でも異なる。

2. 人魚構文

2.1 人魚構文(1): 定形タイプ

2.1.1 構造

定形タイプにおいて、名詞スロットに入る**名詞**は、*mukha* 'face, facial expression' のみである。この語は、サンスクリット語の *mukh* 'mouth, face, countenance' からの借用語である。タガログ語の *mukha* は人魚構文以外で「顔」や「表情」の意味で用いられるが、人魚構文で用い

5 リンカーは、修飾要素と被修飾要素を繋ぐために広く用いられる。

られるときには、その文は視覚的証拠や推測に基づく証拠的意味を持つ。

節の述語は、名詞(8)、形容詞(10)、動詞(12)のいずれも可能であるが、述語が動詞の場合には、動詞は定形となる。上述のように、タガログ語にはコピュラ動詞がないので、名詞や形容詞の場合には、定形と不定形の違いは事実上存在しない。述語が何であれ、節はそれ自体で文として成り立つ。

名詞述語：

- (7) *Binata=pa=siya.*
bachelor=yet=3SG:TOP
'He is still a bachelor.'
- (8) *Mukha-ng* [*binata=pa=siya*].
face-LK bachelor=yet=3SG:TOP
LT: 'Face [he is still a bachelor].'
FT: 'It seems he is still a bachelor.'

形容詞述語：

- (9) *Malusog si Erap.*
healthy TOP Erap
'Erap is healthy.'
- (10) *Mukha-ng* [*malusog si Erap*].
face-LK healthy TOP Erap
LT: 'Face [Erap is healthy].'
FT: 'It seems Erap is healthy.'

動詞述語:

- (11) *Sa-sabog=na ang bulkan.*
AF:CONT-erupt=already TOP volcano
'The volcano will erupt soon.'
- (12)=(5) *Mukha-ng* [*sa-sabog=na ang bulkan*].
face-LK AF:CONT-erupt=already TOP volcano
LT: 'Face [the volcano will erupt already].'
FT: 'It seems the volcano will erupt soon.'

人魚構文の節は連体修飾節に一見似ているが、注意すべきことは、*mukha* 'face' が節の項ではないということである。この点において、人魚構文は、内の関係の連体修飾節とは異なり、外の関係の連体修飾節に似ている (cf. 寺村 1992:192-205)。

定形と不定形の違いを概略的に示すと、以下のようになる(詳しくは、Katagiri 2020)。

- (a) 定形動詞は、焦点(focus)、相(aspect)で活用し、それらが融合した形で示される。
- (b) 不定形動詞は、焦点でのみ活用し、相で活用しない。

上述のように、定形タイプの節の述語は、動詞のときには定形で起こる。基本的に、節の述語が焦点/相で活用する限り、その活用に制限はない。例えば、(13)は、行為者焦点/未完了相で、(14)は、対象焦点/完了相である。

- (13) *Mukha-ng* [b-um-i-bili ngayon ang lalaki nang bago-ng kotse].
 face-LK AF:IPFV-buy now TOP man GEN new-LK car
 'It seems the man is buying a new car now.'
- (14) *Mukha-ng* [b-in-ili kahapon nang lalaki
 face-LK PF:PFV-buy yesterday GEN man
 ang bago-ng kotse].
 TOP new-LK car
 'It seems the man bought the new car yesterday.'

2.1.2 意味

mukha 'face, facial expression' を用いた人魚構文は、視覚的証拠や推測による証拠的意味を表す。具体的には次のような意味を表す。

視覚的証拠：話者が実際に見たことに基づいて、ある動作・状況が起こる／起こったことを推測として述べる。

推測：話者が周辺の状況に基づいて、推測を述べる。

推測を表す例として、(15)のような例がある。この場合、話者は、視覚以外に匂いなどの周辺の状況に基づいた推測からこの文を発することができる。

- (15) *Mukha-ng* [isda ang i-p-in-i-prito nang lalaki].
 face-LK fish TOP PF:IPFV-fry GEN man
 LT: 'Face [the one that the man is frying is fish].'
 FT: 'It seems to be fish that the man is frying.'

2.1.3 *mukha*と副詞的表現との比較

mukha 'face' を用いた人魚構文が表す意味に類似する内容は、副詞を用いて表現すること

もできる。表面的には、副詞 *para* ‘seemingly’ を使った文は、*mukha* ‘face’ を用いた文と同じ構造をしているように見える。

- (16) *Para-ng binata=pa=siya.*
 seemingly-LK bachelor=yet=3SG:TOP
 ‘It seems he is still a bachelor.’
- (17) *Para-ng malusog si Erap.*
 seemingly-LK healthy TOP Erap
 ‘It seems Erap is healthy.’
- (18) *Para-ng sa-sabog=na ang bulkan.*
 seemingly-LK AF:CONT-erupt=already TOP volcano
 ‘It seems the volcano will erupt soon.’

(16)、(17)、(18)と、(8)、(10)、(12)をそれぞれ比べると、少なくとも表面的には、これら2グループの文は同じ構造 (*mukha/para* + リンカー + 節) をしているように見える。意味的にもよく似ており、動作や状況が起こる可能性の高さに多少違いがあるのみである⁶。

しかし、*mukha*を用いた人魚構文と、副詞 *para*を用いた文とでは、重要な統語的違いがある。それは、否定文の語順においてである。タガログ語では、否定辞は、節の初頭、つまり節の述語の前に起きる。*mukha*を用いた(8)の否定文が(19)と(20)の2通り可能であるのに対し、*para*を用いた(16)の否定文として(21)は不可能で、(22)のみ可能である。

- (19) *Hindi=siya mukha-ng binata.*⁷
 NEG=3SG:TOP face-LK bachelor
 ‘He does not seem to be a bachelor.’
- (20) *Mukha=siya-ng hindi binata.*
 face-3SG:TOP-LK NEG bachelor
 ‘He does not look like a bachelor.’
- (21) **Hindi=siya para-ng binata.*
 NEG=3SG:TOP seemingly-LK bachelor
- (22) *Para=siya-ng hindi binata.*
 seemingly=3SG:TOP-LK NEG bachelor
 ‘He does not seem to be a bachelor.’

6 *para* は、*mukha*と同様、多くの場合話者が実際に見たことに基づいて発する表現で、母語話者によれば、その状況が起こる可能性は、*para*よりも*mukha*の方がやや高い(pc.: Maureen Joy Saclot)。

7 タガログ語では、副詞的小辞や人称代名詞は、接語として文の2番目に起こる。

(19) と (21) の文法性の違いは、*mukha* を用いた人魚構文と副詞 *para* を用いた表現が統語的に異なることを示している。否定辞 *hindi* は *mukha* の前には起こることができるが ((19))、*para* の前には起こらない ((21)) ということは、*mukha* が文の述語のように振る舞うのに対し、*para* はそうではないということである。つまり、このことは、*mukha* は副詞的要素ではなく、人魚構文の名詞スロットを占める名詞述語であることを示唆している。((3) の人魚構文の名詞スロットを参照。) なお、(20) が ((22) と同様に) 可能であることは、*binata* ‘bachelor’ が節の述語であることを示している。

2. 1. 4 定形タイプの節の文としての独立性

第1節で示したように、人魚構文のプロトタイプの特徴の一つに、(d) 節は、それ自体で文として成り立つという特性がある。2. 1. 1 で示したように、*mukha* ‘face’ を用いた人魚構文の節は、それ自体で文として成り立つ。ただし、独立の文としての性質をすべて持つわけではない。例えば、定形タイプの節は命令文にはなり得ないので、その意味では節が文としての独立性を完全に持つわけではない⁸。

2. 2 人魚構文(2)：不定形タイプ

2. 2. 1 構造、意味

不定形タイプの構造は、(4) に示した通りである。

- (4) 不定形タイプ：
名詞(-)リンカー [節(不定形)]

定形タイプの人魚構文では、節の述語は名詞、形容詞、動詞のいずれも可能で、動詞の場合には、それは定形であった(2. 1. 1)。不定形タイプの場合は、節の述語は不定形の動詞である。

不定形タイプの名詞スロットを占める名詞は、スペイン語からの借用語である *plano* ‘plan’、*tradisyon* ‘tradition’、*destino* ‘destiny’ と、固有語である *balak* ‘plan’、*kapalaran* ‘fate’ などがある。これらは、「(～する)計画(だ)」、「(～する)運命(だ)」などのモーダルの意味、あるいは、「(～する)習慣(だ)」という習慣を表すアスペクトの意味を持つ。

- (23) *Tradisyon-g* [*ipag-diwang nang manga Filipino ang Easter*].
tradition-LK PF:INF-celebrate GEN PL Filipino TOP Easter
LT: ‘Tradition [for Filipinos to celebrate Easter].’
FT: ‘Filipinos have the practice of celebrating Easter.’

8 タガログ語の命令文は、「動詞の不定形+2人称代名詞」の形で表される。

2.2.2 不定形タイプの節の文としての独立性

不定形タイプの人魚構文では、節の動詞は不定形である。2.1.1で述べたように、不定形は焦点のみで活用し、相では活用しない。(定形は、焦点と相で活用し、それらが融合した形で示される。)不定形は、命令形としても用いられる。しかし、節はそれ自体で、(命令文としても)起こることはできない。例えば、(23)の節は(24)であるが、それ自体は文として成り立たない。したがって、不定形タイプの節には文としての独立性はないと言える。

(24) **Ipag-diwang nang manga Filipino ang Easter.*⁹
 PF:INF-celebrate GEN PL Filipino TOP Easter

2.3 2つのタイプの人魚構文の意味

人魚構文の名詞スロットに入る名詞として、定形タイプでは1つの名詞(2.1)、不定形タイプでは5つの名詞(2.2)があることを見た。その意味を表1にまとめた。表1からわかるように、これらの名詞は、人魚構文においては、(少なくとも意味的に)文法化していることがわかる。特に、定形タイプで用いられる *mukha* は、かなりの程度まで文法化していると考えられる。

表1 人魚構文の意味

人魚構文以外の意味		人魚構文の意味
<i>mukha</i>	‘face’	証拠的：視覚的証拠、推測
<i>plano</i>	‘plan’	モーダルの：「(～する)計画(だ)」
<i>tradisyon</i>	‘tradition’	アスペクト的：習慣
<i>destino</i>	‘destiny’	モーダルの：「(～する)運命(だ)」
<i>balak</i>	‘plan’	モーダルの：「(～する)計画(だ)」
<i>kapalaran</i>	‘fate’	モーダルの：「(～する)運命(だ)」

2.4 定形タイプと不定形タイプの比較

本節では、人魚構文の2つのタイプ、すなわち定形タイプと不定形タイプの比較をする。

2.4.1 行為者名詞句：標識

タガログ語では基本的に、名詞句が動詞と焦点において一致を示すとき、名詞句の前にトピック標識が付く。例えば、行為者焦点文では、行為者を表す名詞句にトピック標識 *ang* (人

9 行為者名詞句を2人称代名詞にすれば、命令文(「イースターを祝え」)として成り立つ(cf.注7)。

名の場合は、*si* が前置する。一方、行為者名詞句が動詞と一致しないときには (つまり、行為者焦点文以外では)、行為者名詞句には属格標識 *nang* (人名の場合は、*ni*) が前置する (詳しくは、Katagiri 2020)。同じことは、人魚構文の定形タイプの節にも当てはまる。

一方、人魚構文の不定形タイプの節の場合は状況が異なる。行為者名詞句が動詞と一致するとき、行為者名詞句には基本的に属格標識が前置する。ただし、(定形タイプと同じように) トピック標識が前置する場合もある。(25) では、節の動詞が (不定形の) 行為者焦点形であるが、行為者である *Pilar* (人名) に前置する標識は、トピック標識も属格標識も容認される。

- (25) *Kapalaran-g* [ma-wala si / ni Pilar sa
 fate-LK AF:INF-disappear TOP/GEN Pilar OBL
Maynila upang ma-kita si Pepe].
 Manila in order to PF:INF-see TOP Pepe
 LT: 'Fate [for/of Pilar to get lost in Manila in order to see Pepe].'
 FT: 'Pilar was destined to get lost in Manila in order to see Pepe.'

他の例を見ると、行為者焦点形の動詞と一致するにも関わらず、行為者名詞句には属格標識が付き、トピック標識は容認不可能であるか ((26))、容認度が低い ((27))。結果として、行為者名詞句が属格で標示される (26)、(27) は、いずれも無主題文となる¹⁰。

- (26) *Plano-ng* [b-um-isita ni / *si Noy sa Davao bukas].
 plan-LK AF:INF-visit GEN/*TOP Noy OBL Davao tomorrow
 LT: 'Plan [of Noy to visit Davao tomorrow].'
 FT: 'Noy plans to visit Davao tomorrow.'
- (27) *Kapalaran-g* [ma-talo ni / ??si Erap noon-g eleksyon].
 fate-LK AF:INF-lose GEN/ ??TOP Erap last-LK election
 LT: 'Fate [of/for Erap to lose in the last election].'
 FT: 'Erap was destined to lose in the last election.'

現段階で、(25) のような例と (26) や (27) のような例の違いの要因を特定はできないが、いずれの場合も行為者名詞句が属格標示を受けることが可能であることから、不定形タイプの節の行為者名詞句は、基本的に属格で標示されると言えそうである。2. 2. 2 で見たように、不定形タイプの節は文としての独立性が低いために、動詞が行為者焦点形であっても行為者名詞句が (通常、文に義務的な) トピック標識を取らず、所有者を表すのに用いられる属格形になると推測される。例えば、(26) を日本語に直訳すると、「ノイの明日ダバオを訪問する計画だ」となり、

10 タガログ語の文では、原則として、トピック標識で標示される主題名詞句が義務的に起こる。

行為者名詞句「ノイ」が節「明日ダバオを訪問する」の行為者名詞句であると同時に、名詞「計画」の所有者名詞句として解釈できるのである。このことは、次節で見る行為者名詞句の相対的順序についても言える。

2.4.2 行為者名詞句(2)：相対的順序

定形タイプと不定形タイプでは、節の行為者名詞句の起こる位置に関しても違いがある。便宜上、不定形タイプから見ることにする。

不定形タイプでは、行為者名詞句に属格標識が付く場合は、節の動詞に先行し、名詞の直後に起こることがある。これは、(i) 行為者名詞句が動詞と一致するとき((28))、(ii) 行為者名詞句が動詞と一致しないとき(例：(29)、(30))のいずれも可能である。

- (28) *Kapalaran ni/*si Pilar na [ma-wala sa Maynila*
 fate GEN/*TOP Pilar LK AF:INF-disappear OBL Manila
upang ma-kita si Pepe].
 in:order:to PF:INF-see TOP Pepe

LT: 'Fate of Pilar [to get lost in Manila in order to see Pepe].'

FT: 'Pilar was destined to get lost in Manila (when she went) to see Pepe.'

- (29) *Plano nang gobyerno-ng [aprubahan ang pag-import*
 plan GEN government-LK approve-PF:INF TOP NMLZ-import
nang bigas].
 GEN rice

LT: 'Plan of the government [to approve the import of rice].'

FT: 'The government plans to approve the import of rice.'

- (30) *Tradisyon nang manga Filipino-ng [ipag-diwang*
 tradition GEN PL Filipino-LK PF:INF-celebrate
ang Easter].
 TOP Easter

LT: 'Tradition of Filipinos [to celebrate Easter].'

FT: 'Filipinos have the practice of celebrating Easter.'

(25)と(28)を比較すると、(25)では、行為者名詞句*Pilar*(人名)は節の内部すなわち(動詞の後)にあり、トピック標識と属格標識のいずれでも標示可能であるのに対し、(28)では、行為者名詞句*Pilar*は名詞*kapalaran* 'fate'の直後に起こっていて、トピック標識ではなく属格標識で標示されている。ここで注意しなければならないのは、名詞の直後に起こることができるのは、行為者名詞句のみであるということである。対象名詞句など((29)の'rice'や(30)の'Easter'など)行為者名詞句以外のものは、その限りではない。

不定形タイプと異なり、定形タイプの場合、節の行為者名詞句は、トピックであろうと((31))、トピックでなかろうと((33))、名詞 *mukha* の直後に起こることはできない((32)、(34))。

- (31) *Mukha-ng* [*bi-bisita si Noy sa Davao bukas*].
 face-LK AF:CONT-visit TOP Noy OBL Davao tomorrow
 ‘Noy seems to be going to Davao tomorrow.’
- (32) **Mukha si/ni Noy na [bi-bisita sa Davao bukas]*.
 face TOP/GEN Noy LK AF:CONT-visit OBL Davao tomorrow
 LT: ‘Face of Noy [that is going to Davao tomorrow].
 IM: ‘Noy seems to be going to Davao tomorrow.’
- (33) *Mukha-ng [t-in-anggap=na nang gobyerno*
 face-LK PF:PERF-receive=already GEN government
ang kanila-ng pagkakamali].
 TOP 3PL:OBL-LK mistake
 ‘The government seems to have acknowledged its mistake.’
- (34) **Mukha nang gobyerno-ng [t-in-anggap=na*
 face GEN government-LK PF:PERF-receive=already
ang kanila-ng pagkakamali].
 TOP 3PL:OBL-LK mistake
 LT: ‘Face of the government [that received their mistake already].’
 IM: ‘The government seems to have acknowledged its mistake.’

このように、不定形タイプでは、属格で標示された行為者名詞句は名詞の直後に起こることができ、定形タイプでは、行為者名詞句がその標示が属格であろうとトピックであろうと名詞の直後に起こることはできない。この違いについても、断定することは早計であるが、節の文としての独立性にその要因があると思われる。つまり、定形タイプの場合は、節の文としての独立性が高いため、節の中の名詞句は節の外に移動することはできない。一方、不定形タイプの場合は、節の文としての独立性がないため、属格で標示された行為者名詞句は名詞の直後に(すなわち節の外に)移動できる。その場合、行為者名詞句は、節の行為者であると同時に、名詞の所有者名詞句のように振る舞うと考えられる。例えば、(30)は、日本語に直訳すると、「フィリピン人のイースターを祝う習慣だ」のようになり、行為者名詞句「フィリピン人」は、「イースターを祝う」という節の行為者名詞句であると同時に、名詞「習慣」の所有者名詞句として振る舞うと解釈できるのである。

3 人魚構文と他の構文との比較

3.1 はじめに

本節では、人魚構文と他の構文との比較を行う。特に、次の二点について検証する。

- (a) 人魚構文は、連体修飾節を含んでいるか
- (b) 人魚構文は、複節か単節か

人魚構文のプロトタイプの構造は(1)に示したように、少なくとも表面的には複節のように見える。Tsunoda ed. (2020) で報告されている言語の中には、プロトタイプの人魚構文の節は連体修飾節（あるいは関係節）に類似しており、それゆえ、その人魚構文は連体修飾節を従属節として持つ複節であるように見える。しかし、日本語 (Tsunoda 2020a) や朝鮮語 (Kim 2020) のような言語においては、人魚構文は連体修飾節を含んでおらず、統語的に複節ではなく単節であるという証拠がある。タガログ語の人魚構文についても、上掲の二点から検証する必要がある。

タガログ語では、次の構文を比較する。

- (i) 単節の独立文
- (ii) 人魚構文(1): 定形タイプ(2.1)
- (iii) 人魚構文(2): 不定形タイプ(2.2)
- (iv) 連体修飾節(1): 空所タイプ
- (v) 連体修飾節(2): 付加タイプ
- (vi) 連体修飾節(3): 無主要部タイプ

独立文は、動詞述語文を対象とする。この比較の目的の一つは上掲の (b) であるので、単節の文を見る。人魚構文に関しては、特に節を見るが、人魚構文全体も見る。

特に、ここで問題となるのは、2つのタイプの人魚構文の複合性（複節か単節か）である。独立文や連体修飾節はそれを検証するために用いるのみにとどめ、本稿では詳しく扱わない（詳しくは、Katagiri 2020）。これらの構文における動詞形態と統語について比較し、その結果を表2にまとめることとする。

3.2 動詞形態

- (i) 単節の動詞述語文では、述語動詞は定形である。
- (ii) 人魚構文(1): 定形タイプでは、述語が動詞の場合、それは定形である。
- (iii) 人魚構文(2): 不定形タイプでは、述語が動詞の場合、それは不定形である。
- (iv) 連体修飾節(1): 空所タイプ
- (v) 連体修飾節(2): 付加タイプ

(vi) 連体修飾節(3): 無主要部タイプ

いずれも、述語が動詞の場合、それは定形である。

3.3 行為者名詞句の標識

(i) 単節の動詞述語文

(ii) 人魚構文(1): 定形タイプ

いずれの場合も、行為者名詞句が焦点において動詞と一致するときには、それはトピック標識で標示される。動詞と一致しないときには、属格標識で標示される。

(iii) 人魚構文(2): 不定形タイプ

行為者名詞句が動詞と一致するときでも、それは基本的に属格標識で標示される。トピック標識が可能な場合もあるが、多くの場合容認度は低い。

(iv) 連体修飾節(1): 空所タイプ

非行為者名詞句が空所となるとき、連体修飾節内の行為者名詞句は属格標示となり、動詞とは一致しない。行為者名詞句が空所となるとき、動詞と一致し、連体修飾節には起こらない。すなわち、何の標示も受けない。

(v) 連体修飾節(2): 付加タイプ

行為者名詞句が動詞と一致するときには、トピック標識で標示される。動詞と一致しないときには、属格標示となる。

(vi) 連体修飾節(3): 無主要部タイプ

行為者名詞句が動詞と一致しないときには、属格標識で標示される。動詞が行為者焦点形の場合、行為者名詞句自体は省略され、明示されない。すなわち、何の標示も受けない。

3.4 項や付加詞の削除

便宜上、連体修飾節から見る。

(iv) 連体修飾節(1): 空所タイプ

(v) 連体修飾節(2): 付加タイプ

いずれの場合も、項や付加詞は削除されない。

(vi) 連体修飾節(3): 無主要部タイプ

項や付加詞は常に削除される。

(i) 単節の独立文

(ii) 人魚構文(1): 定形タイプ

(iii) 人魚構文(2): 不定形タイプ

いずれの場合も、項や付加詞は削除されない。

3.5 主語は1つか2つか

本節では、通言語的比較をする目的で、フィリピン諸語以外で用いられる一般的な意味で「主

語」という用語を用いる。すなわち、動詞と(焦点で)一致するものとは限らない。ここで言う「主語」は、他動詞節における動作主/行為者(A)、自動詞節における唯一の項(S)を指す¹¹。

ここでも、便宜上、連体修飾節から見る。

(iv) 連体修飾節(1): 空所タイプ

(v) 連体修飾節(2): 付加タイプ

(vi) 連体修飾節(3): 無主要部タイプ

いずれの場合も、連体修飾節の主語と主節の主語の2つの主語を持ち得る。

(i) 単節の独立文

主語は1つのみである。

(ii) 人魚構文(1): 定形タイプ

主語は1つのみである。例えば、(5)では、主語はang bulkan ‘TOP volcano’である。

- (5) *Mukha-ng* [sa-sabog=na ang bulkan].
 face-LK AF:CONT-erupt=already TOP volcano
 LT: ‘Face [the volcano will erupt already].’
 FT: ‘It seems the volcano will erupt soon.’

(5) には、2つの主語があると捉えることができるかもしれない。すなわち、[]で示した節が主節(文全体)の主語であり、ang bulkan ‘TOP volcano’が従属節の主語であるとする見方である。この見方によれば、(5)の文字通りの訳は、「火山がもうすぐ噴火する顔だ」のようになる。しかし、これは正しくない。この訳に従えば、節と名詞が同一指示であることになり、(5)のような文は、第1節で見た人魚構文のプロトタイプの特徴(c) (節と名詞は同一指示ではない)から外れることになる。したがって、定形タイプの人魚構文の主語は1つのみである。

(iii) 人魚構文(2): 不定形タイプ

例として、(6)を再び見てみよう。

- (6) *Plano-ng* [apruha-han nang gobyerno ang
 plan-LK approve-PF:INF GEN government TOP
pag-import nang bigas.
 NMLZ-import GEN rice
 LT: ‘Plan [for the government to approve the import of rice].’
 FT: ‘The government plans to approve the import of rice.’

11 フィリピン諸語における主語については、一般的な主語という概念は適用できないとする考え方や、トピック標識で標示された主題名詞句を主語とする考え方など、様々な議論がある。ここでは、通言語的比較を行う目的のため、AとSを主語とする。

定形タイプの人魚構文について述べたことと同じことが不定形タイプにも言える。つまり、不定形タイプの人魚構文の主語は1つのみである。

3.6 単節か複節か

上で見た比較の結果をまとめると、表2のようになる。

表2 人魚構文と他の構文の比較

動詞形態		
単節の独立文	定形	
人魚構文(1)：定形	定形	
人魚構文(1)：不定形	不定形	
連体修飾節(1)：空所	定形	
連体修飾節(1)：付加	定形	
連体修飾節(1)：無主要部	定形	
行為者名詞句：標識		
	行為者が動詞と一致するとき	行為者が動詞と一致しないとき
単節の独立文	トピック	属格
人魚構文(1)：定形	トピック	属格
人魚構文(1)：不定形	属格/?トピック	属格
連体修飾節(1)：空所	…	属格
連体修飾節(1)：付加	トピック	属格
連体修飾節(1)：無主要部	…	属格
	項や付加詞の削除	2つの主語
単節の独立文	—	—
人魚構文(1)：定形	—	—
人魚構文(1)：不定形	—	—
連体修飾節(1)：空所	+	+
連体修飾節(1)：付加	—	+
連体修飾節(1)：無主要部	+	+

+：容認可能または義務的； —：容認不可能または無し； …：該当しない

最初の分類基準の「動詞形態」は形態に関係し、その他の基準は主に統語に関係する。特に、「行為者名詞句：標識」については、行為者名詞句の振る舞いに関係する。

定形タイプの人魚構文は、一貫して単節の独立文と同様に振る舞う。また、次の3つの点において連体修飾節のように振る舞う。第一に、「動詞形態」において3つのタイプの連体修飾節と同様に振る舞う。第二に、「行為者名詞句：標識」において、連体修飾節(2)付加タイプと同様に振る舞う。第三に、「項や付加詞の削除」に関して、連体修飾節(2)付加タイプと同様に振る舞う。しかし、定形タイプとすべてにおいて同様に振る舞う連体修飾節はない。つまり、定形タイプの人魚構文は、連体修飾節を含まないので、複節ではなく単節である。

不定形タイプの人魚構文は、単節の独立文とは次の2点において異なる。第一に、動詞は不定形であって定形ではない。第二に、行為者名詞句が動詞と一致するとき、それは基本的に属格となる。不定形タイプは、「行為者名詞句：標識」において連体修飾節では付加タイプとのみ部分的に類似しているが、ほとんどが一致を示さない。したがって、定形の場合より証拠は弱いとは言え、不定形タイプの人魚構文も単節であると言えるかもしれない。

しかしながら、定形タイプと不定形タイプでは、「単節化」の度合いが異なるように思われる。つまり、定形タイプは、単節の独立文とほぼ一致することから単節と言えるのに対し、不定形タイプの場合は、多くの点において単節の独立文と類似しているものの、複節の要素が多少残っていると思われる。

定形タイプと不定形タイプの人魚構文で最も異なる点は、行為者名詞句の振る舞いである。定形タイプの場合は、行為者名詞句が動詞と一致する場合は、単節の独立文と同様、必ずトピック標識で標示される。属格になったり、名詞の後に起こることはない((32)、(34))。一方、不定形タイプの場合は、行為者名詞句は動詞と一致する場合でも、基本的にトピック標識ではなく属格標識で標示され、また、それは「節を越えて」名詞の直後に属格の形で起こることが可能である((28)-(30))。これは、元の位置(すなわち節内)でトピック標示を受ける場合でもそうである。(cf. (25))。

このことから、定形タイプと不定形タイプの人魚構文は、多くの点において単節の独立文と言えるが、単節化の度合いは、定形タイプと不定形タイプでは異なり、不定形タイプは、定形タイプに比べて単節化は完全ではなく、**名詞(述語節)**を主節、**節**を従属節とする複節の性質を残しているように思われる。

3.7 複合述語

前節で、タガログ語の2つのタイプの人魚構文において、不定形タイプは定形タイプに比べその証拠は弱いものの、両タイプとも統語的に複節ではなく単節であることを見た。それはすなわち、この2つのタイプの人魚構文は、述語は1つであり2つではないということである。本節では、この述語がどのような構造をしているのかを考察する。

第1節で見たように、人魚構文のプロトタイプの構造は、少なくとも表面的には(1)で示される構造を持っている。しかし、日本語や韓国語のような言語の人魚構文は、その表面的な外見とは異なり、統語的に複節ではなく単節であることを示す証拠が豊富にある(Tsunoda 2020a,

Kim 2020)。これらの言語の人魚構文は、述語は2つではなくただ1つであり、その述語は、(2)に示したように、節の述語と名詞とコピュラの複合述語である。

- (1) 人魚構文のプロトタイプ：
 [節] 名詞 コピュラ
- (2) [... 節の述語] 名詞 コピュラ
 複合述語

ここで、タガログ語の人魚構文について考えてみよう。第1節で述べたように、タガログ語にはコピュラ動詞がないので、コピュラは関係しない。検証すべきことは、名詞と節の述語とが統語的な単位をなしているか否かということである。これに関しては、タガログ語の2つのタイプの人魚構文のより詳細な統語的分析が必要となるが、ここでは、現段階での暫定的な考察を述べる。

定形タイプでは、名詞と節の述語が単位をなしていることを示す証拠が2つある。第一に、名詞と節の倒置は容認不可能である。(36)のように倒置すると、節の述語と名詞が分離され、非文となる。

- (35) **[Sa-sabog=na ang bulkan] ay mukha.*
 AF:CONT-erupt=already TOP volcano INV face

第二に、(32)と(34)で見たように、行為者名詞句が名詞と節の述語の間に介在することはできない。

一方で、名詞と節の述語が単位をなしていないことを示す証拠が1つある。節内での倒置が可能であり、その場合は名詞と節の述語が分離されるので単位をなしていないということになる。

- (36) *Mukha-ng [ang bulkan ay sa-sabog=na].*
 face-LINK TOP volcano INV AF:CONT-erupt=already
 'It seems the volcano will erupt soon.'

このように、定形タイプでは、名詞と節の述語とが単位をなしていることを示す証拠が2つあり、単位をなしていないことを示す証拠が1つある。

不定形タイプの場合は、名詞と節の述語とが単位をなしていることを示す証拠が2つある。第一に、定形タイプと同様、名詞と節の述語の倒置は不可能である。例えば、(23)の節と名詞を倒置した(38)は、節の述語と名詞が分離されている。

- (37) **[Ipag-diwang nang manga Filipino ang Easter]*
 PF:INF-celebrate GEN PL Filipino TOP Easter
ay tradisyon.
 INV tradition
 LT: '[For Filipinos to celebrate Easter] is tradition.'
 IM: 'Filipinos have the practice of celebrating Easter.'

第二に、定形タイプと異なり、節内の倒置も不可能である。(23)の節内で倒置をした(38)では、名詞と節が分離されている。

- (38) **Tradisyon-g [ang Easter (ay) ipag-diwang*
 tradition-LK TOP Easter INV PF:INF-celebrate
nang manga Filipino].
 GEN PL Filipino
 IM: 'Filipinos have the practice of celebrating Easter.'

しかしながら、名詞と節の述語が単位をなしていないことを示す証拠が1つある。定形タイプと異なり、不定形タイプでは行為者名詞句が名詞と節の述語の間に介在することが可能である((28)-(30))。統語的要素(ここでは行為者名詞句)の介在を許すということは、名詞と節の述語が複合述語化していないとみなす重要な証拠となり得る。このように、不定形タイプにおいては、名詞と節の述語とが単位をなすことを示す証拠が2つあり、単位をなさないことを示す証拠が1つある。

したがって、定形タイプと不定形タイプのいずれについても、名詞と節の述語とが単位をなすことを証拠が2つ、単位をなさないことを示す証拠が1つあることになり、単位をなすことを示す証拠がわずかに優勢であるということになる。したがって、これら2つのタイプのいずれにおいても、名詞と節の述語が統語的な単位をなし、複合述語化していると言うことができるかもしれない。もしこの見方が正しければ、(5)の構造を次のように示すことができる。

- (5) *Mukha-ng* [*sa-sabog=na ang bulkan*].
 face-LK AF:CONT-erupt=already TOP volcano
 複合述語
 LT: 'Face [the volcano will erupt already].'
 FT: 'It seems the volcano will erupt soon.'

しかし、タガログ語の人魚構文において名詞と節の述語が複合述語化されているという証拠は、日本語や朝鮮語のそれに比べかなり弱い。定形タイプにおいては節内で倒置が許容される

点、不定形タイプにおいては行為者名詞句が(属格形で)名詞と節の述語の間に介在できる点において、名詞と節の述語が複合述語化されているとする根拠はかなり弱い。

以上のように、前節で見た人魚構文が単節か複節かという点においても、本節で見た名詞と節の述語とが統語的な単位をなすか否かという点においても、定形タイプと不定形タイプはともに両方の性質を持ち、かつ、2つのタイプ間でその度合いに違いが見られる。特に、節の独立性や、行為者名詞句の振る舞いにおいて、不定形タイプの人魚構文の単節化や複合述語化は定形タイプのそれほど進んでいないように思われる。

通言語的な観点から言うと、日本語や朝鮮語のような言語の人魚構文は、単節化と複合述語化がかなりの程度まで進んだ例として考えられる一方で、タガログ語の人魚構文の場合は、単節化と複合述語化がそれほど進んでいない例として捉えることが可能である。さらに、人魚構文に異なるタイプが存在し、異なるタイプ間で単節化や複合述語化に違いがある点は、タガログ語の特徴的な点であると言える。

4. まとめと結論

これまで人魚構文が報告された言語のほとんどが述語末尾言語であり、人魚構文との類似性が指摘される付加タイプ(外の関係)の連体修飾節を持つのに対し、タガログ語は述語初頭言語であり、付加タイプの連体修飾節はほぼ不可能である。これらの事実にも関わらず、タガログ語には人魚構文が存在する。その構造は、述語末尾言語における人魚構文のプロトタイプの鏡像である。

タガログ語の人魚構文には定形タイプと不定形タイプの2つのタイプがある。定形タイプでは、節の述語が動詞の場合、それは定形になる。名詞は、*mukha* 'face' で、人魚構文は視覚的証拠や推測による証拠的意味を持つ。節は、それ自体で文としての独立性を持つ。一方の不定形タイプにおいては、節の述語動詞は不定形になる。名詞は、習慣や計画、運命などを示す名詞で、人魚構文における意味としては、証拠的、モーダルのあるいはアスペクト的意味を持つ。節は、それ自体で文としての独立性はない。不定形タイプでは、行為者名詞句の標識や相対的順序が普通の文とは異なる振る舞いを示す。

定形タイプも不定形タイプも連体修飾節を含まず、両タイプとも統語的に複節ではなく単節であるとみなす証拠がある。また、両タイプにおいて、名詞と節の述語が複合述語をなす証拠がある。しかし、タガログ語の人魚構文における単節化や複合述語化は、日本語や朝鮮語のそれほど進んでいないと思われる。また、定形タイプと不定形タイプとの間でも、単節化や複合述語化の度合いは異なる。

人魚構文の通言語的研究において、単節化や複合述語化の程度が言語間や異なるタイプ間で異なることを示す上で、タガログ語の人魚構文は重要な位置を占めると言える。異なるタイプにおける単節化や複合述語化の度合いやその相関性については、タガログ語を含む様々な言語の人魚構文の詳細な分析と通言語的な比較が必要であり、今後の課題とする。

略号

AF - actor focus; CONT - contemplated; FT - free translation; GEN - genitive; IM - intended meaning; INF - infinitive; INV - inversion marker; IPFV - imperfective; LK - linker; LT - literal translation; NEG - negative; NMLZ - nominalizer; OBL - oblique; PF - patient focus; PFV - perfective; PL - plural; SG - singular; TOP - topic; 1 - first person; 3 - third person.

引用文献

- Katagiri, Masumi. 2010. Mermaid construction in Tagalog. Paper presented at the workshop on the noun-concluding construction. 国立国語研究所. 7月24日.
- 片桐真澄. 2010. 「タガログ語の人魚構文に関する展望」岡山大学文学部紀要第54号：109-122.
- Katagiri, Masumi. 2020. Tagalog. In Tsunoda ed. 2020: 781-814.
- Kim, Joungmin. 2020. Korean. In Tsunoda ed. 2020: 283-331.
- 寺村秀夫. 1992. 『寺村秀夫論文集 I：日本語文法編』東京：くろしお出版.
- Tsunoda, Tasaku. 2020a. Mermaid construction: An introduction and summary. In Tsunoda ed. (2020). 1-62.
- Tsunoda, Tasaku. 2020b. Modern Standard Japanese. In Tsunoda ed. 2020: 65-123.
- Tsunoda, Tasaku, ed. 2020. *Mermaid Construction: A compound-predicate construction with biclausal appearance*. Berlin/Boston: De Gruyter Mouton.